

オーナー・ビルメンテ管理業者のみなさまへ

非常用発電機の専門知識を持ったチームが活躍するプロ集団です。

面倒は一切ナシ!

「ビルの 安心を守る」

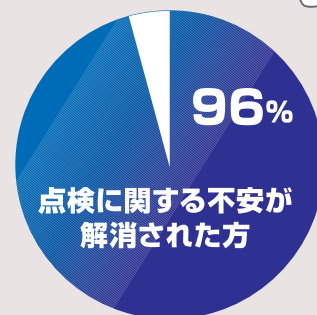
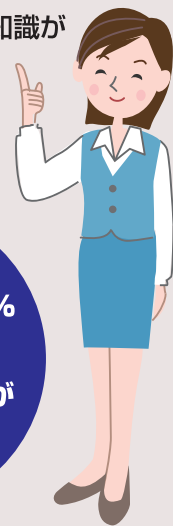
をサポート!!

無料調査
実施中



非常用発電機は **年に1回**
負荷運転
の点検が
義務です!!

非常用発電機を自社で点検する際には専門的な知識が必要不可欠です。不安を感じる前に専門家にご相談を!



☑ 非常用発電機は、なぜ負荷運転の点検が必要なのか?

義務付けられている負荷運転は、スプリンクラーや消火栓ポンプを動かすための運転状況や換気状況等を確認するための点検です。

定期的に無負荷(空ふかし)運転の点検だけを行っている、エンジン内にカーボンが堆積されます。

年1回の30%以上の負荷運転は、堆積されたカーボンを燃焼させて非常時に負荷がかかっても正常に稼働ができるようにするための点検要領です。(通達 消防予第214号第24の3)

消防法により非常用発電機は 年に1回の負荷運転の点検が義務付けられています

消防法で定められている負荷運転は、電気事業法の月次点検とは異なり、消火活動に必要なスプリンクラーや消火栓ポンプを動かす為に必要な出力確認の点検です。

なぜ30%以上の負荷試験が必要なのか？

月次点検等で行なっている無負荷(空ふかし)運転点検だけを行っている、エンジン内にカーボンが堆積されます。その為、1年に1回は、30%以上の負荷運転を行い、堆積されたカーボンを燃焼排出させておかなければ、非常時に発電機が正常に動かず、消火活動が出来なくなる怖れがあるからです。



自家発電設備の定格出力が、加圧送水装置の出力を上回っていないければ
スプリンクラーや消火栓は稼働せず消火活動ができません

非常用発電機の負荷試験とは？



負荷試験機によるカーボン燃焼排出の点検

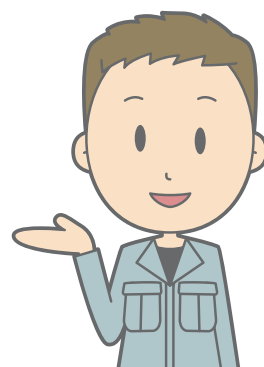
- 1 黒煙状態をみながら5%~20%まで少しずつ負荷をかけていく
- 2 負荷を30%まで上げ、30分間運転状態をみる
- 3 10%、20%、30%出力毎に、電圧、電流の測定を行う

点検時間の短縮

作業は停電をさせず約1~2時間で簡単に発電機の試運転と30%負荷試験確認及び点検データの作成が出来ます。

騒音作業は最小限

模擬負荷試験では、微調整しながら負荷をかける事が出来るので、騒音を最小限に抑えながら作業する事が出来ます。



非常用設備には下記の4つの定期点検が必要です

〈電気事業法の点検〉

	点検時期と点検箇所	点検内容	点検業者
1	1～3ヶ月に1回の電気点検と起動運転	<ul style="list-style-type: none"> 電気系統の正常作動確認 受変電設備 発電機等の起動運転(約5分) (出力確認の消防法の点検ではありません。無負荷運転) 	電気設備点検業者

〈消防法の点検〉

	点検時期と点検箇所	点検内容	点検業者
2	6ヶ月に1回の機器点検	<ul style="list-style-type: none"> 消火器・火災報知機 避難器具・ガス漏れ警報器 誘導灯等の防災設備等の主に目視点検 	消防点検業者
3	年に1回の総合点検	<ul style="list-style-type: none"> 消火器・火災報知器 避難器具・ガス漏れ警報器 誘導灯等の防災設備等の機能点検 	

弊社サポートはコチラ

	点検時期と点検箇所	点検内容	点検業者
4	年に1回の負荷機能点検 ①機能運転点検 ②30%出力確認点検 ③出力データ作成	①機能点検 (バッテリー・ファンベルト・オイル・ フライミング操作及び黒煙等の点検(約15分)) ②負荷試験機を接続して30%以上の出力点検(30分) ③出力データ作成	出力負荷点検業者 一般財団法人日本発電機整備振興会 全国認定施工店

消防点検の〈自家発電機〉総合点検報告書

消防点検の〈自家発電機〉総合点検報告書(3枚目)

別記様式第24 非常電源(自家発電設備) (その3)

絶縁抵抗				
始動装置	※始動用蓄電池設備			
	始動用空気圧縮設備			
	始動用補助設置			
保護装置				
※※運転性能	負荷運転		○	
	内部観察等			
切換性能	運転切換性能			
	※蓄電池切換性能			
	始動用燃料切換性能			
備考	測定データ別紙添付			
測定機器	機器名	型式	校正年月日	製造者名
	絶縁試験器	DI-28P	2009/04	(株)日置電機
	回路計	3030-10	2009/04	日置電機(株)
	架線電流計	3129-10	2011/10	共立電気計器(株)
	機器名	型式	校正年月日	製造者名
	負荷試験機	JLS-30	2014/12	(株)JLS

今後は負荷運転に記号だけではなく**測定データ**や**使用機器名称**を明記すること
 消防予第382号
 平成28年12月20日
 消防庁予防課

測定データ

使用機器名称

別記様式第24 非常電源(自家発電設備)

負荷点検試験実施年月日 平成 29年 5月 30日							
模擬負荷試験機による負荷運転点検結果報告表							
発電機出力容量 330kVA (264KW)							
記録時間	負荷	負荷率	電圧	電流			結果
時分~(分間)	kW	%	V	R相(A)	S相(A)	T相(A)	
11:36~(5分)	26.4	10%	220	70.6	71.2	69.6	○
11:42~(5分)	52.8	20%	220	145.5	145.4	144.0	○
11:47~(30分)	79.2	30%	220	211.6	212.5	212.0	○

非常用発電機の出力行確認負荷試験

「出力確認負荷試験」の知識を備えたスタッフがオーナー様への説明同行から状況確認、点検、データ票の管理まで弊社が行います。些細なご相談から承ります。



御社との協力体制を構築し
非常用発電機の負荷試験のサポートを行います

面倒は一切ナシ！ 安全・安心を提供！

法人名

一般財団法人 日本発電機整備振興会

所在地

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-27-11 タクマビル4F

TEL 03-3668-6345

FAX 03-6206-2906

URL

<https://gmo.or.jp>



会社名

株式会社ダーウィン

一般財団法人 日本発電機整備振興会 会員

東京本社

〒141-0031 東京都品川区西五反田4-1-2 シティパレス溝口2F

TEL 03-5719-2266

FAX 03-5719-2262

大阪オフィス

〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東2-4-10 三共新大阪ビル603

TEL 06-6379-3331

FAX 06-6379-3332

URL

<https://www.darwin100.com>

DARWIN
RESPECT 100 ★



代理店